

◆『アジア・キリスト教・多元性』第6号をお届けいたします。

この研究雑誌は、研究会「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」（通称、「アジアと多元性」研究会）の一年間の活動報告として刊行されてきたが、本6号の刊行によって、本研究会の6年目の活動も無事締めくくることができた。6年の間、継続的に雑誌が刊行できたことについて、今回論文を執筆いただいた方々、またほかの研究会メンバーの方々にお礼を申し上げたい。

◆2007年度の研究会の活動の詳細については、本号の「研究会の活動内容（2007年度）」あるいは研究会のホームページでご覧いただくことができるが、本年度も毎月一回の研究会を積み重ねることによって、充実した個人研究と共同研究を進めることができた。今後は、こうした研究会を一層充実させながら継続するとともに、『比較宗教学への招待—東アジアの視点から—』（晃洋書房）以降の研究成果について、論文集という形で公にすることを目標に研究会のレベルアップをはかりたいと思う。そのために、毎月一回の研究会とは別に、集中的な研究発表の場（夏の一泊研究会など）を設定することも考えてゆきたい。2008年度にはすでに何人かの新しいメンバーの参加が予定されているが、今後この研究会を、参加メンバーそれぞれの個人研究の発表の場としてはもちろん、「アジア」「キリスト教」「多元性」という共通テーマの下での創造的な共同研究の発表の場としても育ててゆきたい。

◆『アジア・キリスト教・多元性』第6号の論文執筆者の中より、二、三のメンバーについて、最近の動向を簡単に紹介したい。まず岩野祐介氏（研究会活動、とくに研究雑誌の実務担当）であるが、氏は、この2008年4月より、関西学院大学神学部助教として就任することになった。今後、日本キリスト教史を中心とした研究と教育において、若い世代の研究者をリードする活躍を期待したい。また、方俊植氏と菊川美代子氏は、それぞれ、京都大学大学院文学研究科修士課程（キリスト教学）と同志社大学大学院神学研究科修士課程に修士論文を提出、受理され、2008年4月より、博士後期課程に進学することになった。『アジア・キリスト教・多元性』第6号に掲載の論文は、両氏の修士論文の一部を論文化していただいたものであるが、博士後期課程における研究の一層の発展を期待したい。本研究会での発表と討論が、参加メンバーそれぞれの個人研究にとって、よき刺激となれば幸いである。

◆本研究会は、今後、「東アジアのキリスト教」についての歴史的思想史的観点からの研究と、「宗教的多元性」についての理論的な研究とを軸にしつつ、多様な問題連関を結びつけながら、共同研究を進めてゆく予定である。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、ぜひわたくしたちの研究会に参加いただきたい。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力をいただければ幸いである。

2008年3月

研究会代表
芦名 定道